

2025年11月15日 新横浜公園の生きもの博士になろう！2025
第4回「大人版 野鳥観察会」を開催しました。

鶴見川多目的遊水地として、水と緑が豊かな新横浜公園には、多種多様な生きものが生息しています。生きものを好きになり、理解を深めていただく機会として、今年度も「新横浜公園の生きもの博士になろう！2025」（協賛：株式会社春秋商事）を開催しています。

第4回は、昨年度初めて実施し、好評だった大人の方を対象にした野鳥観察会を行いました。コースは、第3レストハウスから大池の水辺を中心に観察して、投てき場の方へ。東ループ橋下から未開放エリアに入り、新横浜大橋下付近で引き返してスタジアムへ向かいます。講師は、NPO法人鶴見川流域ネットワーキングさんです。

スタートしてすぐのドッグラン付近。紅葉するモミジバフウのてっ�んにモズを発見しました。近い距離でじっくり見ることができたので、最初の観察にはとてもよかったです。



最初に現れてくれたのはモズ

大池に到着。岸沿いに歩いて投てき場の方へ向かっていきます。早速見ることができたカモは、ハシビロガモ、コガモ、オカヨシガモ、キンクロハジロなど。水面や対岸のヨシやガマの根元にいましたが、多くは嘴を背中で羽にうずめて休んでいたため、これから冬鳥のカモを覚えようという方には見分けが難しかったかもしれません。コサギが獲物を狙って動き回っていたり、オオバンが上陸して草を食べている様子も観察。亀の甲橋が近づいてきたところで、前方左手奥の亀甲山の方に多数のカラス。よく観察するとハイタカが1羽混じっていました。突堤では、待ってましたカワセミ登場。ハシビロガモが行う渦巻き採食について、新横浜公園ではどんなプランクトンを食べているのか、プランクトンネットで微生物を採集し、ゾウミジンコの仲間が多いことなど紹介しました。草地広場では、たくさんのタヒバリも観察できました。



大池の水辺を観察



オカヨシガモ



獲物を狙うコサギ



草を食べるオオバン



ハイタカ





スコープで覗いたカワセミ



プランクトンネットで池の微生物を採集



つぶつぶに見えるのがミジンコ



ゾウミジンコの仲間が多かったです



草地広場にはタヒバリがたくさん

大池での観察では、途中で水路の方にも立ち寄り、モズのはやにえも観察しました。はやにえにされていたのは、ウシガエル。初めて見るという方もいらっしゃり、興味津々で観察されていました。



モズのはやにえ探し



はやにえにされたウシガエル

続いて、普段は立ち入りできないエリアでの観察。自然と期待感が高まりますね。柵の中に入るとエノキがきれいに黄葉。道の両側には枯れたオギやアシが立ち並んでいます。その枯れ草の中から聞こえてくる「チッ、チッ」という鳴き声は、アオジでした。排水門を見ると上の角にはハヤブサの仲間、チョウゲンボウ。水辺にはダイサギの姿がありました。新横浜大橋下付近に着き、10分ほど自由観察。排水門がある上流方向と下流方向の様子も見ましたが新たな野鳥は見れず、これで観察を終了。日産スタジアムへ向かいました。

最後は、室内でまとめを行いました。3時間の観察で30種でしたので、多くの野鳥を観察できたと思います。風が穏やかだったため、歩いていると思った以上に暑さを感じる観察会でした。ご参加いただいたみなさま、本当にお疲れさまでした。



排水門にとまるチョウゲンボウ



ダイサギ



排水門のそばから鶴見川の方も観察



まとめの様子